

ジョイサポコラム No.18

私の気分転換

横須賀共済病院 産婦人科 竹重 諒子



横須賀共済病院に勤務して3年目になりました。ありがたいことに、近隣の先生方が貴重な症例を紹介して下さるので、充実した日々を過ごしております。産婦人科に入局して12年経ちましたが、いつの間にか後輩の数の方が多くなり、今年は7人の後輩と働いております。頼れる先輩がいるので不安はないのですが、後輩と手術する時にはいつも緊張しますし、後輩から臨床に関する質問や方針相談をされても上手く答えられないことがあったり、常々自分の未熟さを痛感しております。外来、手術、分娩、病棟、当直と毎日目まぐるしく、家に帰ってもその日の反省や明日の業務を考えてしまい、生活は仕事一色

となってしまうがちなのですが、良い気分転換になっているのが韓国語教室です。

韓国語に興味をもったのは韓国ドラマがきっかけです。近年の韓国ドラマは、以前のようなマンネリ化した展開のものではなく、多岐に渡るジャンルで秀逸な脚本が溢れています。心理描写も巧みで、中毒性のある独特な面白さにすっかりハマってしまい、何本も見てみると、字幕と台詞からいくつかフレーズを覚えられるようになりました。もっと韓国語を知りたいという欲が出たので独学で勉強してみると、ハングルは規則性があって分かりやすく、語順は日本語と同じなので馴染みやすく、さらに日本語と似た発音の漢字語が多いのです。面白くなったところで、やはり話し相手がいないと全く上達しないので韓国語教室に通うことにしました。韓国人の先生と直接会話することで、それまで理解できなかった発音の違いが分かるようになりました。韓国語には「ん」の発音が3つあり、同じ子音でも息の出し方で発音が違うのです。月に数回、ネイティブの若い先生と食べ物や文化やお互いのことを話すのはとても楽しく、仕事のモヤモヤはすっかり晴れてリフレッシュします。言いたいことが韓国語で伝えられないもどかしさは、逆にモチベーションとなって、細々とですが勉強を続けられています。

韓国語教室には20代の女の子もたくさん通っていて、韓国文化の浸透を感じます。実は今第4次韓流ブームだそうです。韓流ブームと言えば、2003年頃に中高年を魅了したヨ